

二つが聞きたい

小田 良一 議員

防犯体制の強化について

問 近年、新聞やテレビのニュースなどで凶悪犯罪事件が報じられない日はなく、治安の悪化が心配されている。

これは、大都市で発生し、我々とは無縁であると思われる強盗殺人事件なども地方で発生するようになり、暮らしの安全と安心が揺らいでいる。

十勝管内においても、殺人事件が起きており、他人ごとではない。

幕別町でも空き巣や窃盗、車両ねらいなどの事件が増加していると聞いている。

特に、札内地区においては、住宅の増加と帯広市に近いことから、犯罪が非常に増えているのではないかとと思われる。札内地区には

発生していないが、空き巣、ひったくり、車上狙い、などの「窃盗犯」は、255件で全体の9割近くを占め、詐欺などの「知能犯」は8件、暴行・傷害などの「粗暴犯」が4件発生している。

交番があり警察官が24時間体制で勤務しているが、パトロール中に不在の場合があり、住民が何らかの事件に巻き込まれ、交番に駆け込んだ場合、警察官が不在で被害が広がる恐れがある。

こうした事態を防ぐために、防犯体制を強化をする意味で、次の3点について伺う。

- ① 町内における空き巣や窃盗などの犯罪状況について。
- ② 防犯対策のさらなる強化をどのように考えているか。
- ③ 交番の無人化をどのように考えているか。

町長

① 町内で発生した刑法犯といわれる犯罪は、平成13年には261件、平成14年は269件、平成15年は308件の発生で、微増傾向を示していたが、昨年平成16年は291件で、前年比5・5%の減少となっている。

殺人、強盗などの「凶悪犯」は、本町内においては

番が不在になる実態がある。道警では、交番に警察官が不在の際、警察官に代わり警察官退職者が地理案内や盗難など、事件の被害届の受け付け業務を行う交番相談員制度が設けられており、現在、帯広警察署管内では、相談員が2名配置されている。

② 犯罪を未然に防ぎ、被害者に犯罪機会を与えないことが重要であり、地域全体で防犯活動に取り組むことが効果的であると考えている。

今後とも、生活安全推進協議会やPTAの皆さん方とともに、防犯パトロールや啓発活動の強化、防犯研修会などの実施などに努め、安全で安心な町づくりに取り組む。

③ パトロールや交通事故の処理など、業務で

外勤し、交



24時間体制で警察官が常駐勤務する「札内交番」

パークゴルフ場の利用について

問

幕別町発祥のパークゴルフは、国内はもとより海外へと普及の輪が広がる一方、ルールのコースの難度が高くなり、また、道具も高価なものが多く、本来の親子三代が楽しくゲームを行うことが困難になっている。

近年、町内の愛好者は横ばい状態と聞いている。

町内の10カ所以上のコースは、場所により利用の少ない所もあると聞いている。

町内にはまだ公園を利用した発祥当時のコースが多く残っているが、それらを守るため、次の2点について伺う。

- ① 各コースの利用状況について。
- ② 利用者の少ないパークゴルフ場の将来について。

町長

① 町で管理しているパークゴルフ場の平成16年度の利用者数の合計は、40万4,390人となっている。コース別には、「ち

ろつとの森」が東西合わせで13万2,720人、「はらっぱ36」が10万1,100人、「俳句村」と「牧水の森」が合わせ5万8,840人、「サーモンコース」が3万5,560人、「つじコース」が3万5,480人、「エルムコース」が2万7,400人、「やまびこコース」が1万1,860人、「さくらコース」が5,800人、「新田の森」が2,290人となっている。

② 公園の有効利用がパークゴルフ発祥の原点の一つであり、その意味からも、多くの方に利用していただいている現状を見ると、ある程度目的は達成されていると認識している。

当面は現在のパークゴルフ場を維持したいと考えているが、利用の極めて少ないコースもあり、費用対効果などを十分検証し、利用者や関係団体の皆さんをはじめ、広くご意見をお聞きする中で、今後の対応を考えて行きたい。